

諸福小だより

～一人ひとりが生かされ 笑顔あふれる学校～

大東市立諸福小学校
校長 田村 ひとみ
令和3年9月10日(金)
☎ 072-873-5816

6年生の修学旅行を延期します。

緊急事態宣言下の現状、他府県での宿泊を伴う教育活動を実施するためには全員PCR検査をすることが必要とされています。さらに、感染者数の減少傾向が見られますが、来週以降も緊急事態が延長される見通しとなりました。このような大阪府の状況に鑑みて、本校では10/15より広島市への修学旅行を予定しておりましたが、日程を11/26・27(金・土)に延期することとしました。土曜日を含みますので、**6年生は11/29(月)が代休**となります。すでにご予定いただいていたところ申し訳ございませんが、ご理解の上、ご了承をお願いします。修学旅行の詳細については、後日6年生にお知らせします。

来週から通常どおりの授業になります。

在校時間が長くなります。健康管理と持ち物等に気を付けてください。詳しくは別紙もしくはHPの大東市教育委員会からのお知らせをご覧ください。

体調不良時は無理をせず休養と受診を

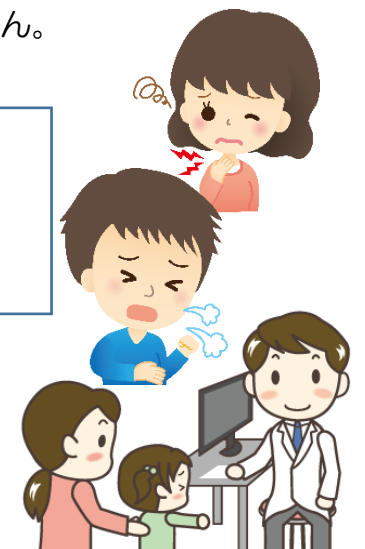
場合によって例外もありますが、PCR検査などで「陽性」の反応が出ると、発症日(無症状の場合は検体を採取した日)の2日前から「感染可能日」と認定されます。つまり、検査を受けてもしも陽性だったら『検査を受けた方がいいかなあ?』と思っていた時には既に人に感染させる可能性があったということです。

最近の新型コロナウイルス感染症の症状は発熱・頭痛・倦怠感など、いろいろです。だから病院受診する必要があるかどうか迷うのは当然でしょう。しかし、万一のことを考えると、早めに受診するにこしたことはありません。今後も引き続き、以下についてご協力をお願いします。

- ① 体調不良時はとりあえず**学校を休ませて様子を見る。**
- ② 原因が不明な場合は、**なるべく病院受診する。**
- ③ 検査を受ける場合は**早めに学校に連絡する。**
同様に、同居家族の健康と行動にも気をつける。

ご家庭や地域の方々にはたび重なる急な変更や休校等にご対応いただきありがとうございます。

重ね重ねすみませんが、日常の感染防止も含めて、今後もよろしくお願いいたします。



タブレット PC と充電ケーブルについて

別紙にて市より貸与されているタブレット PC と充電ケーブルの持ち帰りをお願いしております。その理由をいくつか挙げると、以下のとおりです。

- ① 授業での PC を使用した取り組みの続きを家庭ですることができる。
- ② 家庭で自主的に予習や復習ができるソフトが使える。
- ③ 長期の休業中(冬休みや臨時休業など)に家庭で利用できる。
- ④ オンライン授業、学校行事の動画視聴やリモート集会等に利用できる。
- ⑤ 日常的に校内と家庭で利用するためには、家庭で充電する必要がある。
(学校の充電保管庫は6交代で充電するため、時間がかかります)

また、タブレットは毎日学校でも使用しますので、毎日「就寝前に充電⇒起床して家を出る前にランドセルに入れる」などを習慣づけて、学校に持ってくることを忘れないようにご指導ください。お手順をおかけしますが、よろしくお願いします。

※ 持ち帰りの日は学年によって異なります。その時に「別紙」お願いのお手紙を配布します。



「いじめ」でつらい思いをする人をなくすために

9月3日に6年生で「いじめ予防出張講座」として、弁護士さんに「いじめ」についてお話をいただきました。各クラスで、クラスの友だちが演じる寸劇を見て、弁護士さんからの「どこからがいじめと思う?」という問いかけにみんな真剣に考えていました。「いじめかどうかを決めるのは受けた人の気持ち」「周りの人の行動によっていじめになってしまうこともある」「しんどい気持ちを相談できる大人(弁護士など)がいます」など、いろんなことを教わりました。

これ以外にも諸福小学校では、全学年全クラスで生活指導の先生から「SNS いじめ」についての特別授業を実施しています。子どもの成長の過程で、他の子への関りが適切にできない場面はあることですが、そのことで相手がどう感じるか、考えて行動できるように指導していきたいと思います。

※どちらも授業の様子は実施した日にHPで紹介しています。



コロナについて思うこと

二〇一九年十二月末、コロナのニュースを初めて聞いた。私はきつとすぐおさまるだろうとか、他国だけの話だと思った。今振り返ると、甘い考えだったなと思う。早くコロナがおさまって、もとの生活にもどれたらいいなと思う。

この作文を書く時にコロナについて、家族で話をしてみました。私は、どこにも行けなくなったり、学校のイベントがなくなったり、休校になって友達に会えなくなったり、悪い事しかないと言った。妹も大好きなおばあちゃん達が住んでいる高知県に遊びに行けなくなったと話した。でも、お母さんは、「家族がワンチームになったような気がする」と言ったので、それについて考えてみました。

最近自分達のできるお手伝いが習慣化してきた。たとえば、洗たく物をたたんだり、ご飯の予約をしたり、できることをやるようになった。

休校時には、勉強で分からないことがあると、お母さんに教えてもらって、前向きに取り組むことができたと思う。妹が分からないところは、私が教えてあげることがもあった。

家族で過ごす時間が増えたことで、家族間での会話が増えた。出かける時には、お互いに

「マスク持った？」

帰宅時には

「手洗い、消毒ね！」

が合言葉のようになった。

家族と話をすることで、コロナについて私は悪い事だけでなく、家族のつながりを感じることができた。

これからも家族とのつながりを大事にしながら自分なりに感染症対策に取り組んでいきたいと思う。

最後に早くコロナがおさまって、いつもの生活に戻れたらいいなと思う。



コロナ禍での生活は、できなくて嫌なことがいっぱいだけど、そこで逆にできるようになったことについて考えるなんて、素敵じゃないですか？ 『私も見習わなくては…』と思いました。感動をありがとう。

みなさんの家庭でもきっとそういう「コロナのせいで、できるようになっちゃった事」が意外にたくさんあるかもしれませんね。一度、探してみてください。

大東市の弁論大会の代表を選ぶために6年生の作文をいくつか読みました。

その時、上の作文を読んで、「とっても素敵なお話だなあ！」と感動したので、作者さんに「諸福小だよりに載せていいですか？」と尋ねると、承諾してくれました。

